



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和3年2月16日

第10号

今、それぞれができること

副校長 志村 修

新型コロナウイルスのワクチン接種が世界各地で始まりましたが、東京では緊急事態宣言が再び発令・延長され、人の動きの制限をはじめ、社会全体の混乱が続いています。

しかし、このような社会が混乱する出来事は、歴史をたどってみると10年～20年周期で起こっています。2011年「東日本大震災」、2001年「アメリカ 同時多発テロ」、1995年「阪神淡路大震災」等、天災による混乱だけではなく、戦乱や人災がもたらした混乱もありました。

そこで、間もなく震災後10年を迎えようとしている「東日本大震災」の状況と現在の「コロナ感染症」の状況を比較してみました。

どちらも経験したことのない出来事で、初期の段階では、国民の多くが、「この先どうなるのだろう。」と不安な気持ちになっています。そんな中、人々は「今すべきこと、できること」を考え、取り組み始めています。10年前は、がれき除去や物資の支援などの動きでしたが、現在はソーシャルディスタンスやステイホームという動きです。考えてみると、相反する人の動きになっています。

	東日本大震災	コロナウイルス感染症
事態の概要	・津波・建物倒壊による死者多数 【目に見える甚大な被害】 ・原発からの放射能汚染 ・強制避難区域の指定 【今まで経験したことのない事態】	・風邪のような症状の発症時から死に至る重症に急変する症状 ・医療機関が対応できない状況 【今まで経験したことのない怖さ】 ・無症状者からの感染不安 【目に見えない不安】
社会の状況	計画停電、ガソリンを買い求める長蛇の車、ライフラインや生活物資の供給ストップ	自宅勤務、学校の休校、店舗の営業自粛、集会やイベント等人的交流の停止
人々の動き	避難所生活、炊き出し、物資の支援、がれき除去、様々なボランティア活動、復興支援（被災者の励ましや人的支援）	ソーシャルディスタンス、三密を避ける、ステイホーム、テレワーク、オンライン会議や授業、営業自粛、マスク着用、感染者隔離
将来の展望	出来るだけ早く復興、元の生活へ	新しい生活様式、デジタル化、ワクチンへの期待、ウィズコロナの世界

また、社会の風潮も『他者のことを考える』当時とは異なり、『他者との関わりを避ける（我慢する）』ことが第一になっています。そしてこれを「新しい生活様式」とよんでいます。

過度な「新しい生活様式」が続いていくとどうなるのでしょうか。人と関わることで味わえる人間的成長は限られたものになってしまう気がします。

東日本大震災の時に「おもいやり算」という算数がCMを通して紹介されました。悲しい出来事、辛い出来事の連続で、日本中から笑顔が消えていた当時に紹介された算数です。（左下参照）ウィズコロナの世界だからこそ、あらためて広めたい算数です。

人を笑顔にする算数があります。

「たす (+)」 たすけあうと、大きな力に。
 「ひく (-)」 ひきうけると、喜びが生まれる。
 「かける (×)」 声をかけると、ひとつになれる。
 「わる (÷)」 いたわると、笑顔が返ってくる。
 「たす」「ひく」「かける」「わる」
 ほら、やさしいでしょ。おもいやり算。

計算自体はやさしいですが、新しい生活様式の中で、どのように計算をするか、あなたのセンスとスキルが求められます。そして、これらを使いこなして、今の難題も解決していきたいものです。コロナ後の世界がよりよい世界となるように。